

この紙のゴール：主語がする側かされる側かを見て形を選び、場面に合わせて使える / 語群なし。自分の力で形を思い出して書きます。

1 場面に合うほうを○でかこもう。

知識・技能

各3点

(1) 地元を案内していて	This bridge (built / was built) more than a hundred years ago.
(2) 文化祭の写真について聞かれて	My sister (took / was taken) this photo at the school festival last year.
(3) 校内を案内していて	A new gym (is being built / is built) at our school now, so we're using the old one.
(4) 図書室の使い方の説明で	These books can (borrow / be borrowed) for two weeks.

2 対話を通じるように () に英語を書こう。

知識・技能

各2点

A: Wow, the gym looks completely different!

B: It () since Friday. Our class did the flowers.

A: The floor is shining, too.

B: It () by the volleyball team this morning. Oh, and guess what! I () to by a foreign visitor on my way to school!

3 自分のことを書こう。

思考・判断・表現

2点

あなたの町・学校の「じまんできる物」を、受動態を使って英語I文で紹介しよう。

4 形が変わると、話の焦点が変わります。

思考・判断・表現

各2点

冷蔵庫に入れておいたプリンが食べられていた。家族に一言メモを残す。どちらも正しい英文です。

A Someone has eaten my pudding.

B My pudding has been eaten.

① 「犯人さがし」の響きが強くなるのはどちらですか。記号で答えよう。

② なぜそうなるのですか。理由を書こう。

解答

1		2	
(1)	was built	(1)	has been decorated
(2)	took	(2)	was cleaned
(3)	is being built	(3)	was spoken
(4)	be borrowed		

3（解答例） The shopping street in my town is visited by many people every weekend.

4 ①は正答が1つ。②は一例で、趣旨が合っていれば表現は問いません

①	A	someone を主語に立てると「だれかがやった」と、した側に目が向く。
②	「受動態は『した人』を言わずに、『何が起こったか』だけを伝える形だから。」（一例）	Aは someone という主語で行為者をさがしに行く文、Bはプリンの上に起きたことだけを報告する文。同じ出来事でも、主語の選択で響きが変わる—ここを説明できれば、受動態の芯が分かっている。

採点のめやす

- ・大問1の正解は(1)過去の受け身・(2)能動の過去形・(3)進行形の受け身・(4)助動詞のうしろの be—4問とも形が違います。「受動態の单元だから全部 be＋過去分詞」と当てにいった答案は(2)が落ちます—返却時にここを1分取り上げてください。
- ・大問1(2)はどの帯にも残します—この小テストでただ1つ「能動が正解」の問題なので、ここを落とした答案は「主語はする側かされる側か」の判断がまだ入っていません。
- ・大問2は3語とも語群の並びを空所の順とわざとずらしてあります（順番で当てられないように）。3つとも別の形（完了形の受け身・過去の受け身・群動詞の受け身）になります。
- ・大問2(3)は文に to が印刷されているので、解答は was spoken まで。was spoken to と to を重ねて書いた答案は、文とつなげて読み上げさせてから減点なしで直させてください（まとまりの意識はできています）。
- ・大問3は受動態が1文入っていて、be動詞と過去分詞の形が合っていれば内容は問いません。発展版は2文で1つの解答です—2文目は should be ＋ 過去分詞が本命ですが、will be ＋ 過去分詞でも可としてください。
- ・大問4は暗記では答えられない問いです。AもBも正しい英文なので、形だけを見ても選べません。②は「した人を言わない／起きたことに焦点を当てる」の趣旨が書けていれば表現は問いません。
- ・帯ごとの扱い：学び直し帯は見取り図が基本の2行なので、大問1(3)(4)と大問2(1)(3)を外して14点満点で扱ってください。
- ・基礎固め帯は見取り図に進行形・群動詞がないので、大問1(3)と大問2(3)を外して19点満点で扱ってください。実力帯・入試帯は24点満点です。
- ・発展版は大問1が記入式です。(3) is being built の being 落ち、(4) be borrowed の be 落ちが最頻出—「助動詞のうしろでも be は消えない」を返却時に。(1)は has been built と書いた答案が出ますが、more than a hundred years ago が一点で時を指すので×—理由を1行添えて返すこと。
- ・大問4を加えて24点構成です。10分で最後まで届かないクラスは、大問3を宿題に回すか、大問4だけを次の時間の導入に使ってください。